

エッジが効いているガレージハウス

EDGE HOUSE

設計・施工：岩橋建築
所在地：愛知県知多市

ガレージハウスを建てるには奥様の理解が欠かせないが、この家はご夫婦揃ってクルマ好き。それもMT車にこだわりあり。そんな2人が望んだガレージは、整備に集中できる場所ではなく、リビングの延長のような温かみのある部屋。そこには防火規制という壁が立ちただかるが、果たしてどのようにクリアしたのか？

文＝籠島康弘

一五
一軒
目

クルマ好きの夫婦が





熱望した、ウツデイなガレージ。

一生ロードスターに乗り続けたいという夫と、竣工当時はミニのMT仕様に乗っていた奥様のガレージハウス。手前のロードスターは友人のもの。最近奥様はカンゲーに乗り換えたが、その理由は「MTがあるから」

1



クルマを買うならMT車、家を作るならガレージハウス。それが当たり前だと考えるご夫婦が、ガレージハウスを建てるにあたって依頼したのは岩橋建築だ。社長の岩橋さんは初めて購入したというクルマがランサーエボリューションI、現在は某雑誌で表紙を飾るほど良コンディションのスカイラインGT-Rを所有しているほど、大のクルマ好き。クルマ好きには、クルマ好きが手がけるガレージハウスの良さがわかるのだ。そこまでこだわるほどだから、さぞやガレージでガシガシ整備したいのかと思いきや「部屋のようなガレージが欲しい」という要望だったと岩橋さんは言う。ガレージで行う作業は、タイヤやオイルを交換する程度。それよりも「リビングと同じように、木のぬくもり、温かみのあるガレージにしたい」とリクエストされたようだ。

ご存じの方もいるだろうが、ガレージの内装には防火規制という高いハードルがある。だから板張りの壁など、木の温もりや温かみのあるガレージは本来難しい。しかし岩橋さんは、その解決策をいくつか用意していた。「例えばダイライトという火に強い耐震壁材の表面に、ヒノキのチ

ただの車庫や作業場ではなく、



EDGE HOUSE

1_リビングからガレージを眺めた様子。リビングもガレージもウッドテイストのため、2台の愛車はまるでオブジェのようだ

2_オイル交換程度はガレージ内で行うが、「部屋」なのでハードな整備は行わない。とはいえ不動車だった原付バイクはここで修理したそう

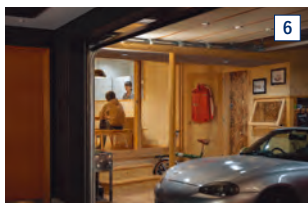
3_信頼性の高い国産のオーバースライダーを採用。最近の木目調は、本物の木製オーバースライダーと遜色ない見た目なのでオススメだ

4_レンガのように見える床材は、ペイマツに防汚剤を染み込ませてスライスしたもの。下地のコンクリートに、手作業で1枚ずつ貼り付けた

5_ガレージ内に設けられた夫の趣味部屋。長時間過ごせるようにエアコンも備えられている。本来はこうして寛ぐ場として活用するのが目的



クルマを置くための部屋。



EDGE HOUSE

6_リビングからだけでなく、キッチンからもガレージが見渡せる。どこにいても愛車を身近に感じることができるガレージハウスだ

7_施主自ら作り上げたガレージのウッディな床。何かと汚れ物が出がちなガレージ内にはシンクも用意するのが、クルマ好きな岩橋さんの心配り

8_リビングからガレージや2階が見渡せる1階。忙しい共働きの夫婦のために、洗濯などの家事動線が一直線になるよう間取りが工夫されている

9_2階は子ども部屋とフリースペースが設けられている。大きな吹き抜けのおかげで、ソファでテレビを見ていると2階の様子がよくわかる

10_ガレージの反対側には、ウッドデッキのある中庭が設けられた。天気の良い日は中庭で、雨の日などはリビングやガレージ内で寛げる

ップをあしらった不燃建材があります。平屋ならOKなど条件はありますが、今回はこの壁材を使用しました」。床材も一般的なコンクリート床ではなく、ペイマツに防腐剤を染み込ませたものをスライスして敷きつめた。おかげで見た目はログハウスのようにウッディだ。オーバースライダーだけは国産の木目調にした。「本物の木を使う海外製もあるのですが、木は重いので、よく故障が起こるんです。そうすると、いつ直せるかわからなくなる」。海外製品の部品が手に入りにくいことは、輸入車乗りなら心当たりのある人は多いだろう。

リビングとガレージの間には大きな特注のガラス戸が備えられた。リビングから愛車を眺められるようにするためだ。大きく開けば、ウッディなリビングとガレージが、ひと繋がり大きな部屋となる。また大きな吹き抜けのあるリビングからは、2階の子ども部屋の様子も窺える。「夫婦の生活

動線はすべて1階に集約。リビングに居れば愛車と子ども、両方見守れます」。さらにガレージには夫の趣味部屋も設けられた。「ところが竣工後間もなく、新型コロナウイルスの感染拡大で、現状は仕事のリモート部屋になっているそうです。ただ、パソコンの画面の向こうにいる同僚からは『すごくカッコいいところで仕事しているね』と好評だとか」と岩橋さん。

こうして念願のリビングのようなガレージを手に入れた2人。喜んでいことは言うまでもないが、岩橋さんいわく、建てた時からすでに愛着が沸いていたようだ。というのも「実は建築コストを抑えることも兼ねて、ガレージの床材を施主に敷きつめてもらったんです。軽トラ3台分はあったかな。仕事終わりに1枚1枚丁寧に貼ってもらいました」とのこと。思い描いていたガレージを、自ら仕上げる。そんな楽しみも得られたガレージハウスだ。👉

クルマも子どもたちも、



リビングから様子が窺える。



クルマ好きの夫婦が熱望した、
ウッディなガレージ。

主要用途：専用住宅 構造：木造在来工法
敷地面積：356.01㎡ (108坪)
建築面積：133.97㎡ (41坪)
延床面積：133.09㎡ (40坪)
設計・施工：岩橋建築
Tel.0569-27-7492
<https://www.iwahashi-home.co.jp>

